
2023年3月期 第3四半期決算説明会

2023年2月3日

 三越伊勢丹ホールディングス

I : 2023年3月期 第3四半期実績

II : 2023年3月期 通期計画

2023年3月期第3四半期実績そして、2023年3月期通期計画についてご説明させていただきます。

I : 2023年3月期 第3四半期実績

II : 2023年3月期 通期計画

まずは2023年3月期第3四半期の実績になります。



第3Q(10月~12月)

- ・総額売上高は上期の好調なトレンド継続に加え、10月以降の水際対策緩和で免税売上増。
- ・営業利益は損益分岐点売上の引き下げにより、18年度146億円を超える156億円を計上。
- ・経常利益、四半期純利益は第1Q、第2Qに続き前年を超える黒字を確保。

(億円)	上期累計 (4-9月)	前年差	第3Q (10-12月)	前年差	第3Q累計 (4-12月)	前年差
総額売上高	4,956	+966	3,239	+414	8,196	+1,381
売上高	2,228	+349	1,443	+176	3,671	+525
売上総利益	1,319	+239	839	+96	2,159	+335
販売管理費	1,230	+72	683	+47	1,913	+120
営業利益	89	+166	156	+48	245	+215
経常利益	95	+166	160	+50	256	+217
四半期純利益	77	+159	117	+27	195	+186

1

こちらが、第3四半期、10月から12月の連結の実績となります。

赤枠の部分が第3四半期の数字となっております。

総額売上高は、3.239億円と上期の好調なトレンドの継続に加え、10月以降の新型コロナウイルスの水際対策の緩和により免税の売上が増加しております。

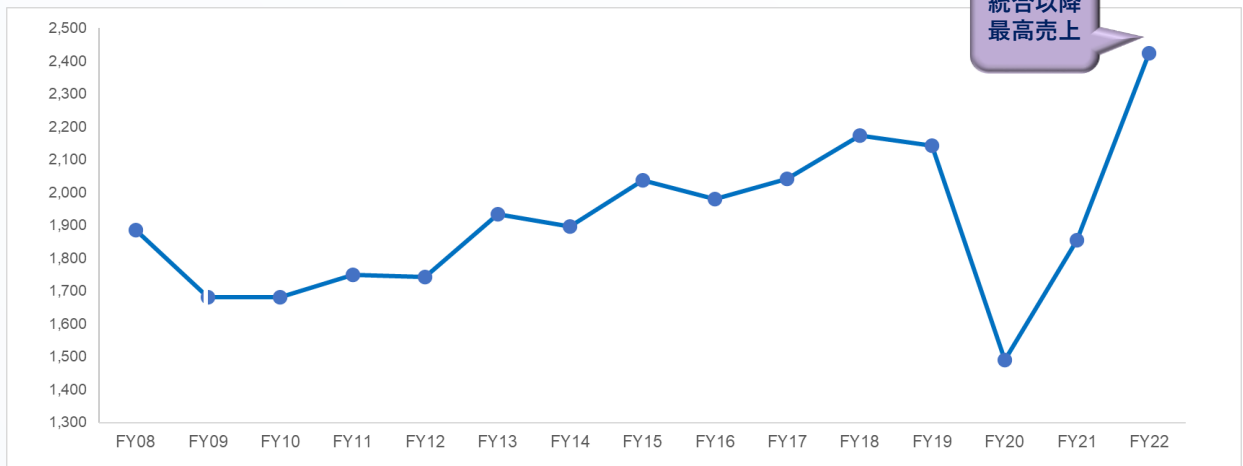
営業利益につきましては、損益分岐点の引き下げにより、2018年度の営業利益146億円を超える156億円を計上しております。

経常利益、四半期純利益に関しましては、第1四半期、第2四半期に続き、前年を超える黒字を確保しております。



- ・伊勢丹新宿本店の第3Q累計売上高は、第1Q、第2Qに続き統合以降で最高売上。
- ・今後も高感度上質戦略、CRM戦略を引き続き推進し、売上高の拡大を図る。

伊勢丹新宿本店 第3Q累計売上高 年度別推移
2008年～2022年



※ 収益認識基準適用前、総額売上高ベース

次に、トップライン（売上高）についてご説明させていただきます。

こちらは伊勢丹新宿本店の第3四半期までの売上高推移です。2018年度を最高に、コロナの影響で2020年度に大きく落ち込みましたが、2021年度から回復し、この2022年度第3四半期につきましても好調に推移し、三越と伊勢丹の統合以降最高の売上高となっております。

今後につきましても、高感度上質戦略、CRM戦略を引き続き推進し、売上高の拡大を図ってまいります。

連結販管費増減

I:第3四半期業績

II:通期計画



- ・構造改革による経費削減は、11月公表の年間計画▲57億円に対して▲49億円まで進捗。
- ・今後も引き続き機動的な経費コントロールを継続。

(億円)	第3Q累計 4-12月	前年増減	前年増減の内訳					
			緊急対策 コロナ特損	当年増減				
				収支 構造改革	売上連動	営業強化 施策	新規連結	その他
人件費	687	+23	+23	▲29			+25	+4
宣伝費	62	+4		▲1		+4	+1	
地代家賃	242	+19	+7	▲2	+6		+11	▲2
外部委託費	214	+4	+3	▲8		+6	+4	
減価償却費	175	+5	+6				+2	▲2
その他	531	+64	+3	▲8	+31		+21	+17
合計	1,913	+120	+41	▲49	+36	+10	+65	+17

3

次に、連結販管費の増減についてです。

販管費は、第3四半期合計で1,913億円、前年差でプラス120億円となっております。緊急対策・コロナ特損の戻りのプラス41億円、新規連結でプラス65億円が要因となっております。

収支構造改革による経費削減は、昨年11月公表の年間マイナス57億円の計画に対して現在マイナス49億円まで順調に進捗しております。

要員数の減少などの要因により人件費として29億円、業務委託等の見直しにより外部委託費8億円の削減と、計画通りに進捗しております。

今後も引き続き、機動的な経費コントロールを継続してまいります。

セグメント別業績（第3四半期累計）

I:第3四半期業績

II:通期計画



- ・百貨店業：コロナ制限のない外出機会拡大等で消費意欲増。利益+237億円大幅改善。
- ・クレジット・金融業：グループ内処理変更に伴う減益あるも、売上高は引き続き堅調に推移。
- ・不動産業：建装事業強化により総額売上高は拡大。

（億円）	総額売上高	前年比	売上高	営業利益	前年差
百貨店業	7,613	118.4%	3,158	175	+237
クレジット・ 金融・友の会業	254	100.5%	229	31	▲16
不動産業	142	108.6%	142	29	▲11
その他※	186	—	140	8	+5
合計	8,196	120.3%	3,671	245	+215

※その他には調整額を含む

4

実績に関する最後のページになりますが、こちらはセグメント別の業績になります。

百貨店業は、コロナによる制限が無くなり、外出機会拡大等で消費意欲が改善し、営業利益は175億円と、前年から237億円の大幅な改善をいたしました。

クレジット・金融・友の会業のセグメントにつきましては、グループ内処理変更に伴う減益があるものの、売上高は引き続き堅調に推移しております。

不動産業は、建装事業強化により、総額売上高に関しましては拡大をしております。

その他の部分で連結調整を行い、営業利益に関しましては合計で245億円の黒字となっております。

I : 2023年3月期 第3四半期実績

II : 2023年3月期 通期計画

続いて、2023年3月期通期計画です。



- 総額売上高は百貨店業の堅調なトレンドを踏まえ、11月計画値から上方修正。
- インバウンドは第3四半期時に入国制限緩和が行われたものの、依然として不透明な状況を考慮。
- 物価上昇による経費増や為替影響は一定程度考慮。
- 経費コントロールは引き続き柔軟かつ機動的に対応。

通期計画につきましては、最初に事業環境の認識ということで、いくつかの前提条件を入れさせていただきます。

総額売上高は、百貨店業の堅調なトレンドを踏まえ、昨年11月時点の計画値から上方修正をしております。

インバウンドは、第3四半期時にご承知の通り入国制限の緩和が行われたものの、依然として中国をはじめ不透明な状況を考慮しております。

また、更なる物価上昇による経費増や為替の影響に関しまして、一定程度を考慮しております。

そして、経費コントロールにつきましては、引き続き柔軟かつ機動的に対応をしていきたいと考えております。



- ・総額売上高は第3Qの百貨店業の好調を踏まえ、11月計画差+50億円。
- ・販管費は収支構造改革に加え、細かな経費見直しを積み上げ11月計画差▲20億円。
- ・以上の結果、営業利益、経常利益、当期純利益ともに11月計画から上方修正。

(億円)	第3Q累計 (4-12月)	前年差	第4Q (1-3月)	前年差	通期	前年差	11月 計画差
総額売上高	8,196	+1,381	2,603	+297	10,800	+1,678	+50
売上高	3,671	+525	1,228	+191	4,900	+716	▲40
売上総利益	2,159	+335	710	+97	2,870	+433	—
販売管理費	1,913	+120	696	+112	2,610	+232	▲20
営業利益	245	+215	14	▲14	260	+200	+20
経常利益	256	+217	3	▲52	260	+164	+20
当期純利益	195	+186	59	▲54	255	+131	+15

6

連結計画、2022年度の通期の計画となります。

赤枠の部分が通期の計画となりますが、総額売上高は1兆800億円と、第3四半期の百貨店業の好調を踏まえ、昨年11月計画値からプラス50億円としております。

販管費につきましては2,610億円と、収支構造改革に加え、細かな経費見直しを積み上げ、11月の計画値からマイナス20億円としております。

以上の結果、営業利益、経常利益は、プラス20億円の260億円に上方修正、当期純利益も255億円と11月から上方修正を計画し、見込んでおります。

国内百貨店既存店売上動向（18年度比較）

I:第3四半期業績

II:通期計画



三越伊勢丹：第3Qに11月計画を上回った実績を踏まえ、下期計画を上方修正。
 地域事業会社：拠点により強弱はあるが、地域から三越伊勢丹への送客売上の進捗や
 足元のトレンドを踏まえ、11月計画より下方修正。

	前回（11/11時点）			今回（2/3時点）		
	上期実績	下期計画	通期	上期実績	下期計画	通期
三越伊勢丹計	98%	98%	98%	98%	104%	101%
（うち）免税除く 売上高	106%	105%	105%	106%	109%	107%
地域事業会社計	90%	98%	94%	90%	93%	92%
国内百貨店計	95%	98%	97%	95%	99%	98%

※ 三越伊勢丹：伊勢丹相模原店・伊勢丹府中店・恵比寿三越は除く、地域：岩田屋久留米店・松山三越・新潟三越は除く

7

次に、対2018年度比較の国内百貨店既存店の売上動向になります。

三越伊勢丹計は、第3四半期に昨年11月に発表した計画値を上回った実績を踏まえ、下期計画を104%と上方修正しております。

一方、地域事業会社計に関しましては、拠点により強弱はあるものの、地域事業会社から三越伊勢丹への送客売上の進捗や足元のトレンドを踏まえ、93%に下方修正しております。

国内百貨店合計としましては、下期は98%から99%、通期においては97%から98%とそれぞれ1%上方修正しております。



- ・ 構造改革による経費削減をさらに進め、11月計画値▲57億円を▲5億円増額し▲62億円。
- ・ 一方で、物価上昇関連の不透明な状況にも対応。
- ・ 第4Qも引き続き機動的な経費コントロールを継続。

(億円)	22年度 計画	前年増減	前年増減の内訳					
			前年戻り	当年増減				
			緊急対策 コロナ特損	収支 構造改革	売上連動	営業強化 施策	新規連結	その他
人件費	930	+64	+61	▲33			+38	
宣伝費	90	+6		▲3		+7	+2	
地代家賃	327	+25	+7	▲2	+6		+17	▲2
外部委託費	290	+5	+3	▲13		+10	+6	
減価償却費	237	+6	+6				+3	▲2
その他	736	+123	+3	▲11	+54	+8	+31	+38
合計	2,610	+232	+79	▲62	+60	+25	+97	+34

続いて、連結販管費の増減になります。

こちらにも収支構造改革による経費削減をさらに進め、昨年11月時点ではマイナス57億円だった計画を5億円上積みし、マイナス62億円の計画としております。

一方で、物価上昇関連の不透明な状況にも対応し、第4四半期も引き続き機動的な経費コントロールを継続してまいります。

セグメント別計画（22年度通期）

I:第3四半期業績

II:通期計画



- ・百貨店業は、第3Qまでの実績を踏まえ売上高を引き上げる一方、経費構造改革の一層の進捗により、営業利益は計画値+20億円。
- ・クレジット・金融業、不動産業については、11月計画通りを見込む。

（億円）	総額売上高	前年比	売上高	営業利益	前年差	11月計画差
百貨店業	9,900	114.9%	4,100	153	+216	+20
クレジット・金融・友の会業	340	103.2%	310	50	▲10	—
不動産業	260	143.9%	260	48	▲7	—
その他※	300	(△6)	230	9	+2	—
合計	10,800	118.4%	4,900	260	+200	+20

※その他には調整額を含む

9

最後に、セグメント別の計画を説明させていただきます。

百貨店業は、第3四半期までの実績を踏まえ、売上高を引き上げる一方、経費構造改革の一層の進捗により、営業利益は153億円と計画値から20億円プラスとしております。

クレジット・金融・友の会業、不動産業につきましては、計画通りを見込み、連結合計で、総額売上高1兆800億円、営業利益260億円という組み立てで計画をしております。